

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示している。ミーティング時に理念の共有を行っている。	理念を各所に掲示し、ミーティング時に唱和する等その共有が図られています。また、利用者に笑顔で関わり、いつも穏やかに、楽しく日常生活が過ごせるように努めていることが管理者のお話から知ることができました。	長年にわたるコロナ禍の中、様々な工夫を凝らした運営がなされていますが、今後も感染予防に万全を期すと共に、感染が落ち着いた後の取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアへ、マイルポイントが貯まる制度を作っています。地域の方への声掛けを行い、夕涼み会を実施している。また、小中学校の生徒さんの来園もあり、交流を行っている。	コロナ禍で外出、面会制限がある中で、地域の文化祭への参加や夕涼み会など、規模を縮小しての様々な行事が行われていることが広報誌(グループホーム新聞)より確認できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を実施し、地域の方々へ認知症の理解や予防に役立てて頂いている。今年度は感染予防のため実施出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しサービスの状況報告や話し合いを行い、会議での意見を取り入れています。研修報告を行い、取り組み等を紹介し市との情報共有に努めています。	運営会議を開催し、施設の運営状況の報告はもとより、事故報告(分析)や職員の研修報告等を通して活発な意見交換が行われていることが記録により確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話等により状況報告や相談を行い、運営推進会議終了後に、担当者からの意見を求めたり、相談の場を持ち情報の共有に努めている。	日常の運営課題について、メールや電話等で意見交換、協議が行われています。また、コロナ感染予防についても頻りに情報交換等が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や、身体拘束に関する研修を事業所内で行い、職員の共有認識を図っている。お互いの支援方法についても、気がついた事があれば指摘し合うなど、身体拘束の防止に努めている。	法人全体としての研修に加え、事業所独自で権利擁護や身体拘束に関する研修が定期的に行われています。また、入居者の安全に考慮したセンサーマットの活用についても適宜検討が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底	高齢者の虐待防止に関する研修会を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	し、職員間の共有認識を図り、虐待防止に努めている。職員間でお互いの声掛けや支援方法について、会議等で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護や、身体拘束に関する研修を事業所内で行い、職員の共有認識を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時は書面にて説明を行い理解していただいた上で同意を頂いている。また不安や疑問・要望についても、発生時・その都度伺い、対応するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、寄合会を開催し、管理者、職員への要望や意見を出して頂いています。家族へは、面会時や電話で身体状況や園での様子などを報告し、相談にも対応しています。また意見箱を設置し運営に反映させています。	寄合会での利用者からの発言を詳細に記録し、その後の運営に生かしています。また、前回の外部評価で明らかになった課題を解決し、家族との信頼関係が更に深まっていることがアンケート結果からも分かります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、部署での会議で必要に応じて、個別面談を実施し、意見や提案の機会を設けている。	職員会議やグルーホーム会議等において出された意見、要望を検討し、業務改善に繋がれていることが記録により確認されました。また、職員の個別相談にも応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修をはじめ、内部研修や外部研修へも積極的に参加できる機会を確保し、認知症介護実践者研修、実践リーダー研修への参加希望も募って行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習の受け入れや、外部研修へ参加する機会を作り、他事業所職員との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを図りながら、思いを傾聴しながら環境整備や活動への参加を促し、不安や希望を伺いながら改善への取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの状況や思いを伺い、入所後の不安や疑問についても都度、職員間で共有を図りながら、状況の変化等を家族へ報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・担当ケアマネと相談しながらサービスの調整を行い、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見極め、それぞれに役割を持ってもらう。また食事のメニューや外出行事など、利用者職員で相談しながら日常生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に、家族へ状況報告の手紙や写真入りの新聞を送っている。面会時にも状況の報告を行っています。面会時間を設定せず、いつでも関わっていただくよう、家族が泊まれる居室も用意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふる里訪問と称し、自宅への外出で家族や友人・知人とのふれあいに努めている。面会時にはお茶を飲みながら、ゆっくり話せる環境作りなど、馴染みの人・場所等が提供できるよう支援している。	昨年は、コロナ禍で外出等が制限される中、車窓から、馴染みの場所の桜見物をする等様々な工夫がされています。また、ご家族に対し、年3回の広報誌発行の際、近況報告の手紙を添える等関係の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話せる環境を提供し、必要に応じて関係を保てるように職員が間に入り、孤立しない関係性が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族が立ち寄っていただける際には、気軽にお話できる環境づくりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からのアセスメントや日常の行動や言葉から、希望や意向を把握するよう努めている。毎月行うグループホーム会議で検討、共有をしている。	寄合会等での発言や日頃の会話の中から希望や思いを把握し、グループホーム会議で検討の上、日々の支援に反映させていることが記録により確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のサービス事業者や、入所時の本人・家族からのアセスメント、知人等から面会時に聞かせて頂いたり、普段の会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の総合記録表に身体や、精神の変化など、日々の様子や発言を記録し、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族との日頃からの関わりの中から、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員全員でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	アセスメントやモニタリング等、ケアマネジメントの展開手順に沿った介護計画が作成されています。特に、総合記録表に記載された一人ひとりの状況が支援計画に反映されていることが確認されました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化等を個々のケア記録に記載し、伝達ノートを活用し、職員間の情報共有をしている。カンファレンスやグループホーム会議を基に、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の要望には柔軟に対応し、実現できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の衣料店に来ていただき、ショッピングを楽しんでいただく。本人の気持ちを尊重し、したい事やできる事への支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は、本人、家族の希望に応じている。町内・市外の医療機関とも連携を取り、受診や往診の支援を行っている。	本人・家族の希望に応じたかかりつけ医や協力医療機関との連携の下、受診や往診の医療的支援が行われていることが確認されました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を職員として配置し、併設のデイサービスの看護師や、掛かりつけの医療機関と連携を取りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から受診時に情報提供や相談に努め、入院時には医師、看護師と連携を図り、早期退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院や終末については、本人や家族と入所時や日頃から意向を確認し、医師や職員と共有し、速やかに対応できるよう努めている。ホームでの看取りの際には、家族が泊まれるよう居室の確保をしている。	本人や家族等の意向に基づき、医師や家族、職員との緊密な連携による看取りケアが行われています。なお、終末ケアのあり方については、今後更に検討を進めて行くとのことでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル確認を定期的に行い、応急手当や初期対応については、消防へ講師を依頼し研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市消防本部の指導による避難訓練を実施し、安全に速やかな非難ができるよう、職員の意識向上を図っている。地域の方々に参加していただく際には意見や提案を頂き、日頃の訓練に活かせるよう努めている。	消防署と連携し、年2回の避難訓練、特に、水害を想定した水難救助訓練を実施していることが広報誌(写真)により確認されました。また、職員に対する救命救急についての講習も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意見や行動、生活習慣を尊重し、些細なことも本人の同意を確認しながら支援するように努めている。丁寧で優しい言葉かけに努めている。	言葉による拘束をしない等、一人ひとりの人格を尊重した丁寧で優しい言葉かけに努めていることが分かります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を尊重し、行動の見守りや自己決定を肯定し、促すように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中で職員の誘導が必要な場面もあるが、基本的には本人の希望や体調を優先しその人らしい生活ができるよう支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や衣類選びは一緒に行い、外出時や行事に参加する時は化粧をするなどしている。白髪染めの希望者があれば毛染めを行っている。希望により出張整容をお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは負担にならない程度に協力を頂いている。希望により思い出料理作りや、おやつ作りを行っている。食事する場所やテーブルクロスを変えるなど雰囲気作りをしている。	寄合会等で要望のあったおやつ作りを職員と一緒にいたり、誕生会やひな祭りには、テーブルクロスを変える等の雰囲気作りに努めていることが聞き取りにより分かりました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。食欲低下・水分摂取の難しい方には、摂取量を記録し、代替えやトロミ剤を使用する等対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。随時、法人内の歯科衛生士に状況を報告しケアの指導や治療の必要性があれば、歯科受診の支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表へ記録し、一人ひとりの状態に応じてトイレ誘導・介助を行っている。気持ちよく排泄できるよう、自尊心を尊重しながら支援に努めている。	耳元で声掛けする等、自尊心の尊重に配慮しながら誘導を行っており、換気の徹底、パーテーションの活用等、環境を整える支援にも努めていることが聞き取りにより確認できました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、個々に応じた内服やヨーグルト等を用いており、排便を促すようにマッサージや体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	暖簾を掛け、入浴剤を入れる事で雰囲気作りをしリラックスできるよう工夫をしている。体調や気分に合わせて曜日や時間帯を調整している。	原則、週2日の入浴が実施されており、暖簾、入浴剤等、利用者がくつろいで入浴できるような雰囲気作りに努めています。また、その日の気分や体調に合わせて、柔軟に対応していることが確認されました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。その時々体調に合わせて休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容はファイルで確認できる。職員が管理を行い、服薬介助やの見込みを確認している。体調に変化があれば報告し、必要時には主治医に連絡し指示を受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、お盆拭き、テーブル拭き等を生活の中での役割として実施していただいている。紀節行事やレクリエーション等への参加を促し、笑顔のある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や状況、天候等を考慮し、屋外での外気浴、ドライブなどを行っている。ご家族の協力によりドライブや外食などもして頂いている。	コロナ禍で外出が制限される中、感染予防に万全の配慮をしながら、屋外食を実施したり、近くの花(梅、桜、彼岸花等)を見学、観賞したり、可能な限りの外出支援に努めていることが広報誌により確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理をしており、個々の希望によりお菓子や日用品を購入している。本人が品物を選んで購入し、金銭感覚を維持できるよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には電話していただけるよう支援している。グループホーム新聞と一緒に手紙を送り、状況の報告をしたり電話でお話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中に居ながら季節感を感じられるような飾り付けや、テラスで野菜や花を植え、旬の野菜を栽培し調理して頂いている。	コロナ禍のため館内の見学はできませんでしたが、季節毎の飾りつけや、テラスではトマト、胡瓜、ナス等の旬の野菜や花を植え、季節感を味わっていただく等、居心地良く過ごせるような工夫をしていることが広報誌等で確認できました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に畳の間があり、ソファやテラス、喫茶室等でのんびり過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力していただき、気に行っている服や靴、写真や好みの本を持参して頂いている。	誕生日に合わせ、居室の飾り付けををしたり、お気に入りの服や写真を持参していることが管理者への聞き取りで確認できました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から出るとガラス越しにリビングの位置がわかる作りとなっているので、手摺りを伝って移動できるようになっている。転倒に注意し、付添いや介助を行っている。		